

「死の受容」研究会 第 12 回定例研究会のご案内

2024 年 4 月 13 日

研究代表者 長谷川（間瀬）恵美（桜美林大学）

春和の候、皆様方におかれましてはご清祥のことと存じます。

2022 年度から科研費事業のもとで、「死の受容」定例研究を継続してまいりました。本研究会では、死後の生命を含む看取りの世界構造をとらえること、また人間の生死を宗教的に受容することの価値や意義について考えていくことを目的として様々な死生観をテーマにして比較考察を深めております。

今年度初回となる第 12 回は、健康ジャーナリストでいらっしゃる原山健郎先生をお招きしてお話いただく予定です。氏は、遠藤ボランティアグループ代表、主婦の友社『わたしの健康』編集長を務められました。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日程、プログラム等の詳細については下記をご参照ください。

日時： 2024 年 5 月 18 日（土） 10:00～12:00

場所： ZOOM 研究代表者 Virtual Office

<https://us02web.zoom.us/j/2881945038?pwd=QzZadmt3b1NKaHpEQnJqbE5rdTgwUT09>

ミーティング ID: 288 194 5038

パスコード: 6X61sE

プログラム

話題提供者：原山 健郎 氏（健康ジャーナリスト）

タイトル： 「クオリティ・オブ・デス（Quality Of Death）

—泣いて生まれて、笑って死ぬ— 〈いのち〉の臨界点をさぐる」

発表要旨：クオリティ・オブ・デスには、医学的な死（肉体の細胞死）だけでなく、死にゆく過程や遺族に対するグリーフ・ケアを含む広義の「死」がある。出産時に妊婦のいきみと胎児の娩出がもたらす「おうそう往相の呼応」があるように、「これ以上は生きられない」と告げる自然死にも「ほんそう還相の呼応」という〈いのち〉の臨界点がある。オギャアと泣いて生まれた私たちは、笑って死ぬことができるのか。「老いる・病める」生き方をさぐる。